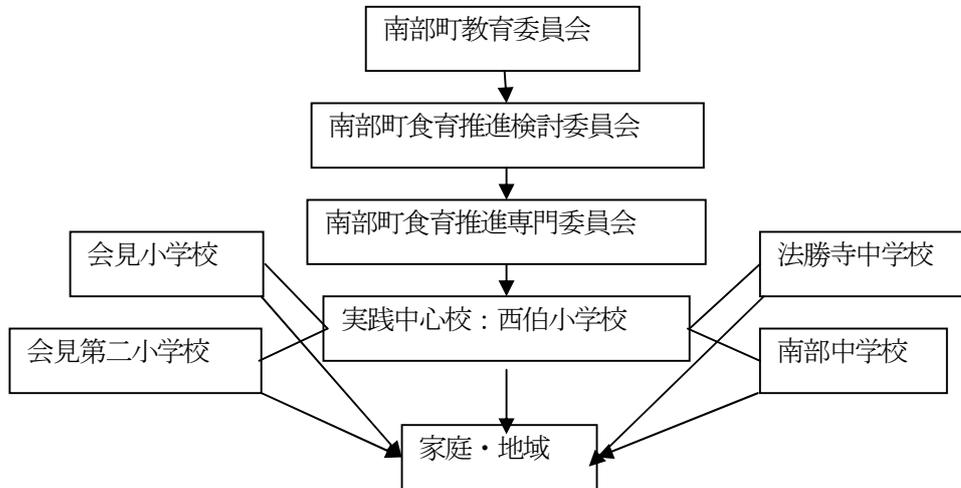


再委託先名

南部町

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1 児童生徒の食生活に生かせる「食育」の取り組み

①担任または教科担任と栄養教諭のチーム・ティーチングによる授業実践

- ・食育年間指導計画に基づき、学級活動や家庭科、生活科におけるチーム・ティーチングを実践した。

(実践例)

家庭科：食に関する単元を中心にT2として関わり、栄養に関する指導や調理実習の計画での助言、調理実習の指導をした。指導にあたっては、実生活に役立つような栄養バランスのとり方や調理のコツなどを助言するようにした。

生活科：2年生の「やさいをそだてよう」という単元で夏野菜についてのクイズや写真を活用した指導を実施した。また野菜の調理を行う際にT2として関わった。

学級活動：年間計画に基づき指導を行った。



【2年生生活科：
やさいはかせになろう】



【2年生生活科：
収穫した野菜の納入】



【2年生生活科：
さつまいもの調理】



【1年生学級活動：
えいようレンジャー登場】



【4年生学級活動：
野菜パワーで元気になろう】



【5年生学級活動：
おやつ選び方】

②各教科、領域、特別活動等における効果的な指導方法の研究

- ・学級活動ではアンケートや残菜の写真、チェックシート等を活用して児童が課題をつかめるよう工夫した。
- ・児童が興味関心をもって取り組めるよう実験や話し合いなどの活動を工夫した。

「野菜パワーで元気になるう」
ゆでた野菜をつぶしてみると・・・



【4年生学級活動】

③給食時間における効果的な食育指導についての研究

- ・鳥取県学校栄養士協議会で作成した食育エプロンを活用して、地産地消や魚の食べ方、日本食の配膳等、「食」に関する指導を実施した。
- ・主食の量について児童生徒が実際に計量することで、主食の意義や必要な量についての理解を深めることができた。
- ・地域に伝わる『古事記』の神話をもとにした給食を実施し、手作りの紙芝居で神話を紹介した。



【食育エプロンで指導（地産地消）】



【ごはんを計量してみる】



【紙芝居（赤猪岩神社の伝説）】

④生活科・総合的な学習の時間等における地域人材を指導者とした体験活動の実施

- ・2年生：生活科では「やさいをそだてよう」の単元で栽培や収穫を地域のボランティア等の方々に指導してもらいながら実施した。また収穫した野菜等で簡単な調理を行い、関わってくださった方を招いて感謝祭を催した。
- ・5年生：総合的な学習の時間で「米作り」の田植え、稲刈り、脱穀の作業を地域ボランティア等の方々に指導してもらいながら実施した。また、収穫したもち米で餅つきを行い、指導に関わられた地域の方々へ感謝を伝えるとともに交流を深めた。



【2年生生活科：さつまいもの苗植え】



【2年生生活科：感謝祭】



【5年生総合的な学習の時間：稲刈り】

⑤校内、町内における食育年間指導計画の調整

- ・町内小中学校の食育主任に呼びかけ、各校における食育全体計画および年間指導計画を新学習指導要領にそった内容に改善した。

⑥食育掲示の資料等の工夫

- ・季節や給食の献立内容に応じた資料を児童玄関のホールに掲示することで、児童の関心を高めるようにした。
(内容) 熱中症予防【健康】、古事記献立【行事食】、沖縄献立【修学旅行先】、
全国学校給食週間について【特別献立】等



⑦児童生徒の実態把握と変容調査（アンケート調査・分析）

- ・町内小中学生および保護者を対象に「食」に関する実態調査を2回実施した。
- ・アンケート結果を食育だよりに掲載し、児童生徒および保護者への啓発資料とした。

テーマ2 地産地消を生かした「食育」の取り組み

①地産地消を生かした学校給食献立の充実

- ・町内で生産される野菜や加工品を積極的に献立に取り入れ、季節感のある献立の提供に取り組んだ。
- ・献立表には「町内産」、「県内産」を明記し、給食時間の校内放送で紹介した。

②生産者と児童の交流

- ・教科等の関連で、地域の生産者を講師に招いて農業体験を実施し、収穫後も交流を深めた。
- ・地域の給食食材生産者と児童による交流給食を学校給食週間中に実施した。各クラスに1～2名の生産者に入ってもらい、野菜や加工品作りなどの生産の喜びや苦労などの話をしてもらった。その後、学校と生産者による意見交換会をもち、児童の様子や生産者からの意見、要望を話し合った。



【交流給食の様子】



【交流給食の様子】



【意見交換会の様子】

③地産地消の掲示資料の研究及び作成

- ・毎日の給食に使用する地元産食材や生産者の写真を、給食用サンプルケース台のメニューボードに掲示して、給食の実物を見ながら食材を確認できるようにした。
- ・児童玄関ホールに可動式の食育の掲示コーナーを設け、地産地消の特別献立についての掲示を行った。



【食材と生産者の写真】



【食育掲示コーナー】

④地場産物を取り入れた献立の募集と実施

- ・小学校6年生および中学生を対象とした「地産地消献立」を募集し、2月に給食で実施した。実施にあたり、該当児童生徒のコメントを献立表に記載したり、給食時間に放送したりした。
- ・校内の掲示コーナーに、できあがった給食の写真を掲示したり、学校ホームページで紹介したりした。



【地産地消献立の掲示】

⑤食育に活用できる教材（旬のカレンダー）の作成

- ・給食でよく使用する町内産の野菜等について、旬を示したポスター大のカレンダーを作成し、町内の保育園、小学校、中学校へ配布した。
- ・生産にかかる期間が一目でわかるよう種まきの時期や収穫の時期を地元の生産者から聞き、カレンダーに色分けをするなどの工夫をした。
- ・旬のカレンダーは給食時間に指導用教材として活用した。
(給食に使われている野菜を紹介し、カレンダーを示しながら、その食材の旬や、種まきの時期を説明した。)



テーマ3

学校と家庭・地域との連携による「食」に関する指導の充実のための取り組み

①地域住民・PTAを対象とした食育講演会の実施

10月6日(土)

講演「“弁当の日”と子育て」

講師 竹下 和男氏



②おにぎり給食の実施

10月15日(月)および11月26日(月)に自分でおにぎりをにぎって持参する、「おにぎり給食」を町内全小中学校で実施した。当日は主食がおにぎりで牛乳やおかずは給食を提供した。



【第1回おにぎり給食の様子】



【第2回おにぎり給食の様子】



【おにぎり給食の日の献立】

③保護者の実態把握と変容調査（アンケート調査・分析）

- ・町内小中学生および保護者を対象に「食」に関する実態調査を2回実施した。
- ・アンケート結果を食育だよりに掲載し、児童生徒および保護者への啓発資料とした。

④ケーブルテレビ等を利用した啓発活動の実施

- ・地元ケーブルテレビによる「おにぎり給食」の番組を放映し、家庭や地域へ学校における食育の取り組みについて紹介することができた。
- ・町の健康福祉課と連携して、学校給食の人気メニューを紹介する料理番組を作成し、放映した。
- ・「古事記ロマン献立」の実施について、地元ケーブルテレビの番組で放映したり、町報に掲載したりすることで、地域に啓発することができた。

テーマ1～3に共通する具体的計画

○「おにぎり給食」の実施

今回の事業では子どもや保護者の「食」に対する意欲や関心を高め、食の選択能力などの実践力を養う目的で、「おにぎり給食」の実施を計画した。そして町報やケーブルテレビ等のメディアを利用して、学校や家庭だけでなく、地域にも啓発し食育が推進できるようにしたいと考えた。

具体的には、子どもが作る「弁当の日」の提唱者の竹下和男氏を招いた講演会の実施や、子ども自身がにぎったおにぎりを学校に持参して食べる「おにぎり給食」を2回実施した。その様子は家庭へ配布した「食育だより」や、町報および町のケーブルテレビでの放映などを通して地域に発信し、啓発に努めた。

○ 事業実施の前後で「食育アンケート」を実施し、児童生徒および保護者の食に関する意識についての実態把握や「おにぎり給食」の成果や課題を検証した。

○ 「おにぎり給食」の実施に向けて、先進地視察を行った。

日にち：10月22日（月）

視察先：島根県雲南市立大東中学校及び海潮小学校

参加者：南部町食育推進専門委員7名および南部町教育委員会事務局2名

内容：「自分で作る弁当の日」の実施について経緯や方法等の説明を受けたり、実際に行われた「弁当の日」の様子を視察したりした。



【大東中学校での説明の様子】



【色とりどりの弁当 海潮小学校】



【全校での“弁当の日” 海潮小学校】

本事業における評価指標と考察

南部町食育アンケートの結果および考察

1学期末及び2学期末に小中学生および小中学校保護者を対象に食育アンケートを実施した。

調査時期 第1回 平成24年7月10日(火)～13日(金)

第2回 平成24年11月26日(月)から12月21日(金)

調査対象 町内小中学校の児童生徒および保護者

回収率 【1回目】

小学校 児童 657名中640名(97%)

小学校保護者 478軒中287軒(60%)

中学校 生徒 308名中303名(98%)

【2回目】

小学校 児童 660名中650名(98%)

小学校保護者 481軒中327軒(68%)

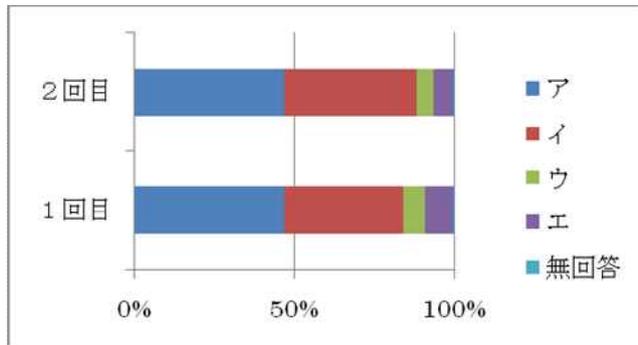
中学校 生徒 307名中298名(97%)

中学校保護者 272軒中161軒(59%)

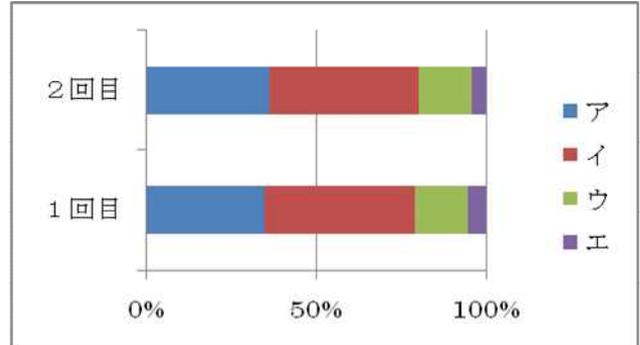
【アンケート結果】

(1) 苦手な食材でもがんばって食べますか？(お子さんが苦手な食材や料理を出しますか？)

〈小学校〉



〈中学校〉

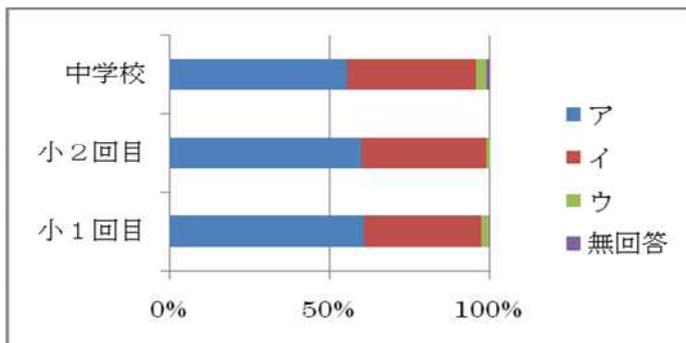


ア:食べる イ:ときどき食べる ウ:食べない エ:苦手な物はない

〈小〉	ア	イ	ウ	エ	無回答	〈中〉	ア	イ	ウ	エ	無回答
2回目	47%	42%	5%	6%	0%	2回目	37%	44%	15%	4%	0%
1回目	47%	37%	7%	9%	0%	1回目	35%	44%	16%	5%	0%

(1) お子さんが苦手な食材や料理を出しますか？

〈保護者〉

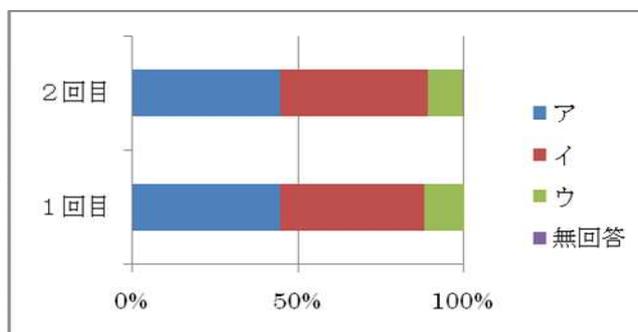


〈保〉	ア	イ	ウ	無回答
中学校	55%	41%	3%	1%
小2回目	60%	39%	1%	0%
小1回目	61%	37%	2%	0%

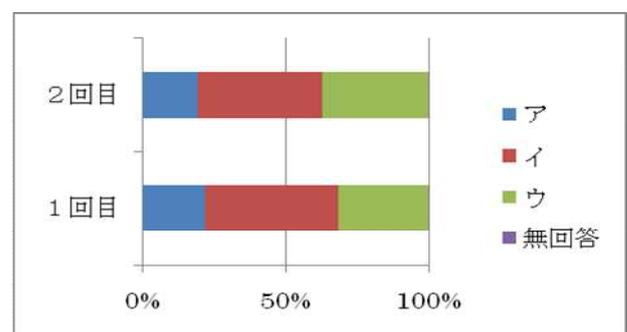
ア:出す イ:ときどき出す ウ:出さない

(2) 朝食で「赤・黄・緑」をそろえて食べていますか？(そろえて出していますか？)

〈小学校〉



〈中学校〉

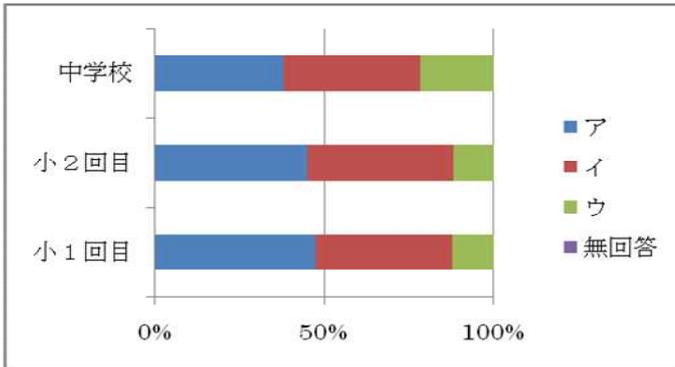


ア:そろえている イ:ときどきそろえる ウ:そろえていない

〈小〉	ア	イ	ウ	無回答	〈中〉	ア	イ	ウ	無回答
2回目	45%	45%	10%	0%	2回目	19%	44%	37%	0%
1回目	45%	43%	12%	0%	1回目	21%	48%	31%	0%

(2)朝食で「赤・黄・緑」をそろえて出していますか？

〈保護者〉

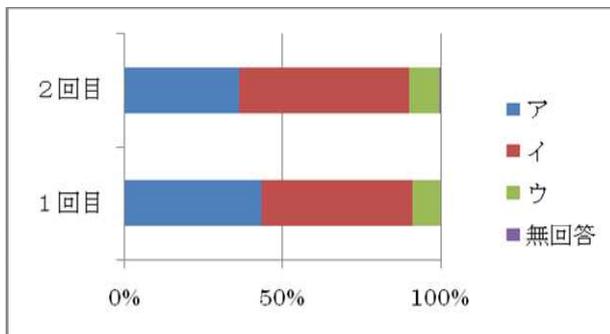


〈保〉	ア	イ	ウ	無回答
中学校	38%	40%	22%	0%
小2回目	45%	43%	12%	0%
小1回目	47%	41%	12%	0%

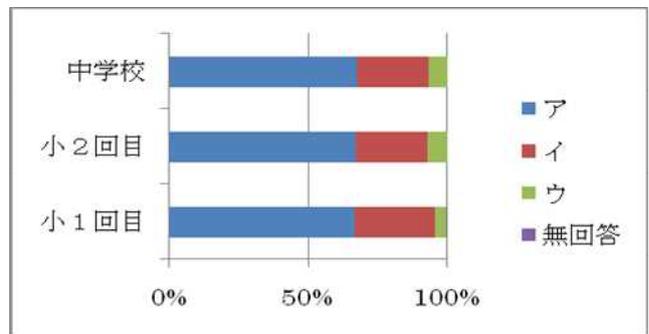
ア:そろえている イ:ときどきそろえる
ウ:そろえていない

(3)小学校:食事のお手伝いをしますか？(させますか？)

〈小学校〉



〈保護者〉

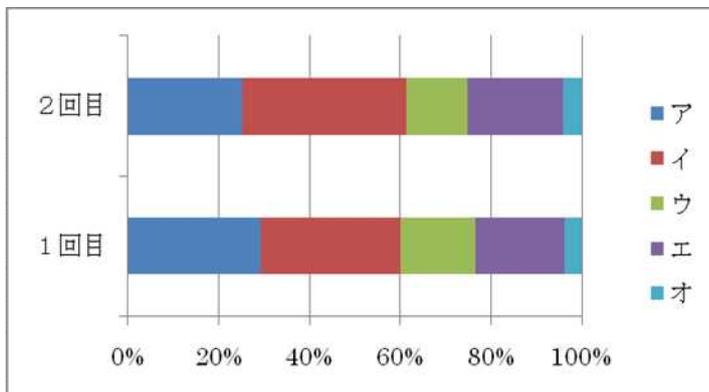


ア:する(よくある) イ:ときどきする(たまにある) ウ:しない(ない)

〈小〉	ア	イ	ウ	無回答	〈保〉	ア	イ	ウ	無回答
2回目	36%	55%	9%	0%	中学校	68%	25%	7%	0%
1回目	43%	48%	9%	0%	小2回目	67%	26%	7%	0%
					小1回目	67%	29%	4%	0%

(3)中学校:料理を何品くらい作ることができますか？

〈中学校〉



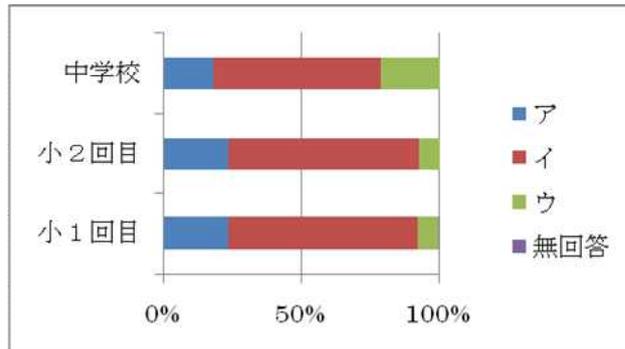
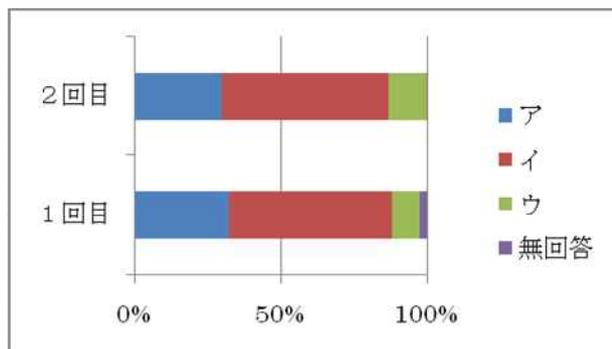
ア:1~3品 イ:4~6品 ウ:7~10品
エ:11品以上 オ:その他

	ア	イ	ウ	エ	オ
2回目	25%	37%	13%	21%	4%
1回目	29%	31%	17%	19%	4%

(4)旬(しゅん)の食材を食べるようにしていますか？(取り入れるようにしていますか？)

〈中学校〉

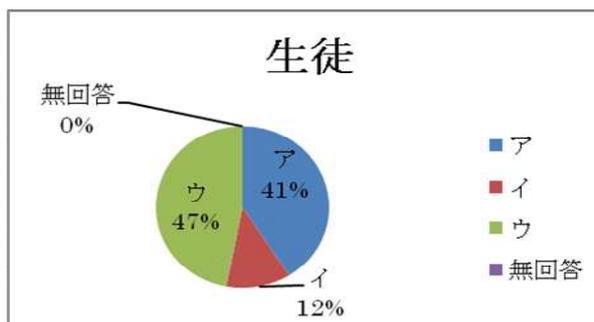
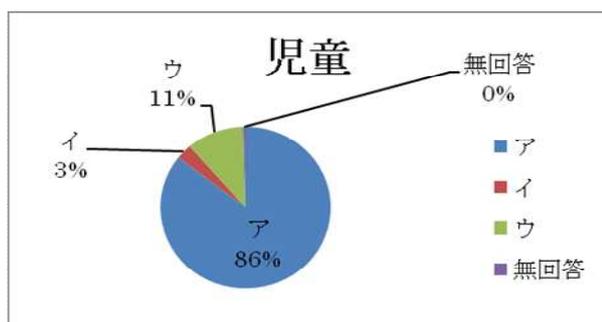
〈保護者〉



ア:よく食べる(なるべく取り入れている) イ:たまに食べる(ときどき取り入れている)
ウ:ほとんど食べない(特に取り入れていない)

	ア	イ	ウ	無回答		ア	イ	ウ	無回答
					中学校	18%	61%	21%	0%
2回目	30%	57%	13%	0%	小2回目	23%	69%	7%	0%
1回目	32%	56%	9%	3%	小1回目	23%	69%	8%	1%

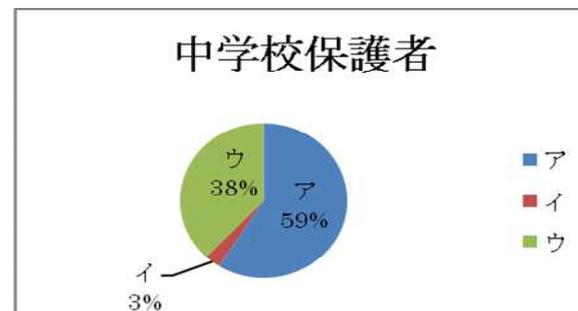
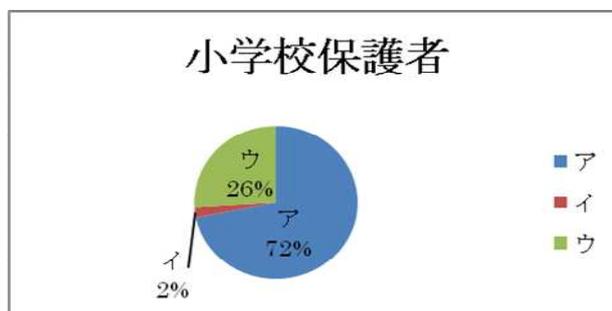
(4)おにぎり給食はよかったですか？(実施してどうでしたか？)



ア:よかった イ:よくなかった ウ:どちらともいえない

	ア	イ	ウ	無回答
小学校	86%	3%	11%	0%

	ア	イ	ウ	無回答
中学校	41%	12%	47%	0%



ア:よかった イ:よくなかった ウ:どちらともいえない

〈保〉	ア	イ	ウ	無回答
小学校	72%	2%	26%	0%
中学校	59%	3%	38%	0%

【自由記述】

児童生徒から

- ・自分で作ったおにぎりがおいしかった。
- ・おにぎりの具を考えるのが楽しかった。
- ・友達とおにぎりの話しができてよかった。
- ・おにぎり給食がきっかけで、家の手伝いをするようになった。

保護者から

- ・少し早起きして作っていた。
- ・親子で楽しく会話できる良い機会だった。
- ・量や中の具を考えながら握っている姿は楽しそうに見えた。
- ・楽しみながら作っていた。家族の分まで作ってくれた。
- ・まだ始まったばかり。続けていくうちに良さがでると思う。
- ・ぜひ定期的にしてほしい。

【考察】

- 苦手な食材について、小学生は苦手でも食べている割合が多いが、中学生では低い。中学生は食の嗜好がはっきりしてくるため、苦手な食材を食べようとしないう傾向にあることがわかった。食と健康の関係について興味関心を持つことで、苦手な物でも食べようという意欲がわくと考えられることから、給食時間やT、Tによる食の指導の継続が必要である。
- 朝食について、小学生はバランス良く食べようとする傾向がみられるが、中学生はその傾向がやや低い。今後、児童生徒および家庭に対して、具体的な例を示しながら朝食の大切さを啓発していくことが必要である。
- 多くの小学生が家庭で食事の手伝いをしていることがわかった。また中学生は料理のレパートリーが少し増えていることもわかった。小さいころから「食」への意識関心を高めることで、実践力が身につくと考えられるので、系統的な「食に関する指導」を継続する必要がある。
- 普段から家庭の食事で旬の食材を取り入れていることが伺える。今後も学校給食で旬の食材を積極的に使用したり、旬の食材について食育だより等で知らせたりすることが大切といえる。
- 「おにぎり給食」の実施で、多くの児童生徒が「食」について興味関心をもち、作る喜びを味わうことができたといえる。自分でおにぎりを作ることが食の実践力を身につけるよいきっかけとなり、さらに発展できるよう、今後も工夫した指導を積み重ねていくことが大事である。

本事業の成果

児童生徒および保護者の「食」に対する意欲や関心を高め、実践力を養いたいという目的で「おにぎり給食」を軸にこの事業に取り組み、次のような成果が得られた。

- 学校における教科・領域等では、「食」に関する内容を栄養教諭が専門的な立場から指導に関わったことにより、児童生徒の興味関心や学習意欲が高まり、理解を深めることができた。
- 「おにぎり給食」の実施により、児童生徒および保護者が必然的に「食」に関わることになり、児童からは「大変だったが、またやってみたい」、「食事を作る大変さがわかった」等の感想、保護者からは「子どもが意外と意欲をもって取り組んでいた」、「親子の会話が増えた」、「子どもが手伝ってくれるようになった」等の感想が多く寄せられ、実践力をつけるための一歩が踏み出した。
- 食に関するアンケートでは、朝食の摂取状況改善や料理のレパートリーの数の増加がみられ、わずかながら良い結果が得られた。またアンケートを実施することにより、保護者の「食」に対する意識を高めるために良い機会となった。

食の実践力はすぐに身につくものではないことから、今後、日々の学校給食を通じた食に関する指導を積み重ね、児童生徒の育成および保護者への啓発を進めていきたいと考えている。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

このたびの事業で実施した「おにぎり給食」において、その意義や実施方法等の共通理解や周知徹底が十分ではなかったため、児童生徒および保護者の中で若干困惑がみられた。町と学校および家庭（PTA）が目的を共有し、食育を推進するための組織的な体制の見直しが必要であると考えます。

また始まったばかりの「おにぎり給食」を軸とした「食育」をさらに発展させるためには、長期的・短期的ビジョンを明確にし、計画性のある食育事業を関係機関と連携しながら推進することが今後の課題といえる。